

はばたけ！ 広島サンダーズ

久原 大輝

前半戦の一番となった東京グレートベアーズ戦を呉市で開催した。昨季は1勝3敗と苦戦した相手だけに、何としても勝利したいところだ。互いに新戦力を加えて臨んだが、結果は悔しい2連敗。2日間で9セットを戦い、そのうち6セットがわずかに2点差という大接戦で、両者の実力が限りなく拮抗していることがわかった。内容自体は悪く

敗戦後に見えた結束

ないものの、最後の1点を奪い切れなかった。

11月23日の試合後に選手だけのミーティングを行い、井上慎一郎、永露元稀、フェリペ・ロケの3選手が前向きな言葉を寄せ、悔しさを共有しながらも、ここからさらに強くなるための道筋を示した。意見の伝え方はそれぞれ違っても、「このチームで勝ちたい」という思いは完全に一致した。

最後まで控室に残った高木啓士郎、樋口裕希の両選手が運営スタッフへの感謝を込めて清掃を行う姿は、役割の違いを超えて一つにまとまろうとするチームの結束を象徴する場面だった。

12月の天皇杯では再び東京グレートベアーズと対戦する可能性がある。これ以上ない、絶好のリベンジの機会だ。その前に今年最後のホームゲームとなる、岩国市での一戦を勝利で締めくくり、呉でのホームゲームの雪辱を果たしたい。

(広島DMネジャー)

得点源として活躍している
クーパー・ロビンソン

(11月15日)

